

犯罪被害者等への支援体制

問 ①支援の総合窓口はどこに設置し、どういう体制か。

②警察・関係機関との連携は。

答 ①総合窓口は本庁舎内に設置を検討しており、安全・安心ネットワーク推進室が対応する予定である。

犯罪被害者等への対応は、居住の安定を図るための市営住宅の確保や保健医療・福祉サービスに応じるなどの支援を考えており、特定の犯罪被害者等に限定する考えはない。

②市では、岡山市犯罪被害者等支援庁内連絡会議を設置し、関係部局と連携を図る。

また、県警に設置されている市警察部や市内の各警察署に設置されている犯罪被害者等の支援窓口との緊密な連携を考えている。

このほか、民間支援者団体等で相談を受けた犯罪被害者等に対しても市としての支援を行い、支援者団体のフォーラムや、おかやま被害者支援ネットワークなど関係機関との連絡会議にも積極的に参加し、連携を図りたい。

民間施設等を避難所として確保

問 民間の空地、駐車場などは、一次避難地としての目的が担保できるのか。

答 一次避難施設として協定しているのは、大規模な駐車場を確保しているイトーヨーカ堂をはじめ、体育館や建物の一部の使用が可能な大学、病院等20社である。

この協定は、災害対策基本法に基づき、市が避難勧告または避難指示を発令し、あるいは住民が自主避難する場合、市が避難所の提供を要請することがで

きるもので、避難所の管理運営や防災用品の備蓄等についても協力してもらえることとしている。

公民館と安全・安心ネットワーク

問 ①公民館活動の中で、安全・安心ネットワークと重なる活動は。

②地域のネットワークに何をどの程度求めていくのか。

答 ①ESDの活動を公民館と地域が一緒になって取り組んだり、公民館で講座を受講した人が新たにボランティアグループを立ち上げて、公民館などで健康づくり活動を行っている事例などがある。

公民館と地域活動が一体化している例がいくつかあり、さら

に活動が進んでいくよう地域団体などと連携し、公民館の拠点性を高めたい。

②地域に求めるというよりは、地域が主体となって活動を進めていくことを支援していきたい。

用語解説「ESD」

「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development) の略称。

『わが国における「ESDの10年」実施計画』では、「一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育」と定義している。

まちづくり・経済



岡山駅南地下道に市民の美術作品を展示

アートロード美術館

問 アートロード美術館の認知度アップを図るには。

答 この美術館は、アートの力で岡山を活性化させたいと願う美術作家らを中心とする市民グループから、岡山駅南地下道のショーケースを美術作品の発表の場として活用したいとの申し出があり、平成20年4月からアートロード美術館実行委員会を組織して運営を行っている。

道路施設を利用した展示環境のため、主に通行人を対象とした展示になっているが、市としても、国民文化祭の応援事業や岡山市芸術祭への参加等、機会をとらえ広報面での支援を行っている。

また、展示希望者も増加する傾向にあり、今後も引き続き、実行委員会と協働して、多くの市民に鑑賞してもらえよう努めたい。